



# 師走の六本木界限街歩き



日時:2018年12月9日(日) 天候:曇り一時晴れ 15000歩 約11km

集合:日比谷線六本木駅 六本木口改札 10時

コース:六本木駅→新国立美術館→東京ミッドタウン→赤坂氷川神社→赤坂サカス→アークヒルズ→麻布十番  
→六本木ヒルズ→六本木駅

参加者:栗田(L) 中村ゆ(SL) 市村(SL) 班長=小野里 落合 山田

吉越 神谷 平石 奴田 伊藤眞 青松秀 平山 佐藤繁 小林 山内 宮野 小島 平林勝 志村 木村 奥村  
中林 長廣 滝川 計25名

ここ数日は今の時期にしては暖かな日が続いたが、この日は朝から真冬並みの冷え込みで、皆さんも十分な防寒対策で参加されたようです。夜は若者で賑わう六本木駅も、休日の朝とあって乗降客も少なめ。かつてはアマンドでよく待ち合わせをしたものですが・・・それも今となっては遙か昔の思い出。年を重ねるほどに引き出しの中身も虚しさだけが漂います。(涙)

駅を出て六本木西公園で奥村さんのストレッチも、冷たいビル風が吹き抜け身体が冷えます。環状3号の六本木トンネルを左手に新国立美術館へ。集合写真を撮り館内へ入ると、丁度無料企画展が開催中で暫し見学。ここからミッドタウンへと向かいます。夜になるとイルミネーションで賑わう檜町公園周辺は紅葉が真っ盛りで、青空ならば尚更映えたのですが残念。

赤坂氷川神社でSLの説明を聞き、ランチ場所の一つ木公園へ。ここは高台にあるせいか風が通り肌寒い。赤坂サカスを通り抜け、坂本龍馬も訪れた勝海舟邸跡地に立つ二人の像に。この辺りは坂道が多く、それぞれ名と由来が書かれた案内標識が建っています。ランチで蓄えたエネルギーで、歩道橋の上り階段も足取り軽くアークヒルズへ。お次は本日のメイン(?)の麻布十番商店街を散策。「赤い靴」の少女像を見て買い物へGO! 鯛焼きの浪速屋、豆菓子の豆源をはじめ、それぞれお目当てのものを買い、ケヤキ坂から毛利庭園で最後の紅葉を楽しみ、六本木駅で解散となりました。

<フोटレポート 小島>



<新国立美術館入り口前で全員集合。寒さのせいか皆さんの顔もこわばり気味?>



日比谷線六本木駅。構内集合で良かった！



六本木西公園で栗田さんからコース説明。



ストレッチは奥村さん。皆さん良く伸びていますね。



環状3号のトンネルを歩きます。



トンネル内には不思議なアートが。



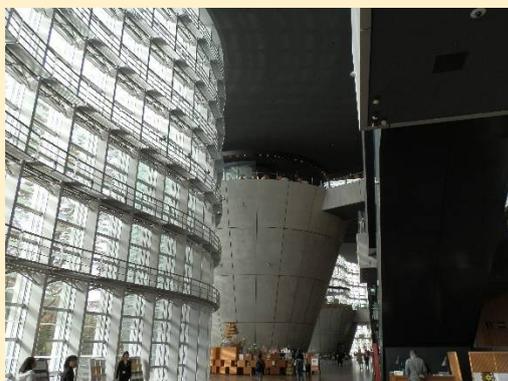
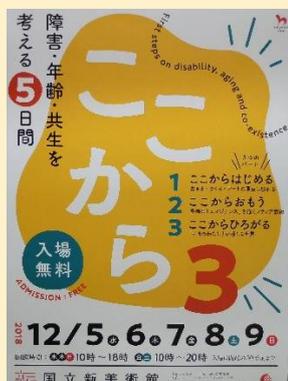
写真かと思ったら画でした。



新国立美術館に到着です。



設計は黒川紀章氏。独特のデザインですね。



入場無料なので入りましたが会場内は撮影禁止。それはいいとして、作品に近づいて指をさすだけで係員から注意された。触っている訳でもないのにこの扱いは・・・これでは企画の趣旨が泣く。(怒)



粋な店が多いのもさすが赤坂界限。

皆さん見上げていますが・・・ミッドタウンに着きました。



ミッドタウンガーデンを散策。ツリーもムードを盛り上げる。ここは夜にはイルミネーションで彩られる場所。



裏手にある港区立檜町公園。池の底が白い岩盤のようで水が透き通って見えます。紅葉はもう終盤か。

### <檜町公園>

その昔、檜が多いことから「檜屋敷」と異名をとった萩藩・毛利家の麻布下屋敷の庭園跡です。その広大な庭は「清水亭」と呼ばれ、江戸の町並みを一望できる名園として名を馳せました。そんな名園の緑は、公園となったいまも、昔と変わらぬ「日本の美」を彩っています。1.4ヘクタールの敷地の約半分を占める大きな池を囲む回遊式庭園をはじめ、遊具のある芝生エリアなど、地域の人々の憩いの場となっています。(港区HPより)



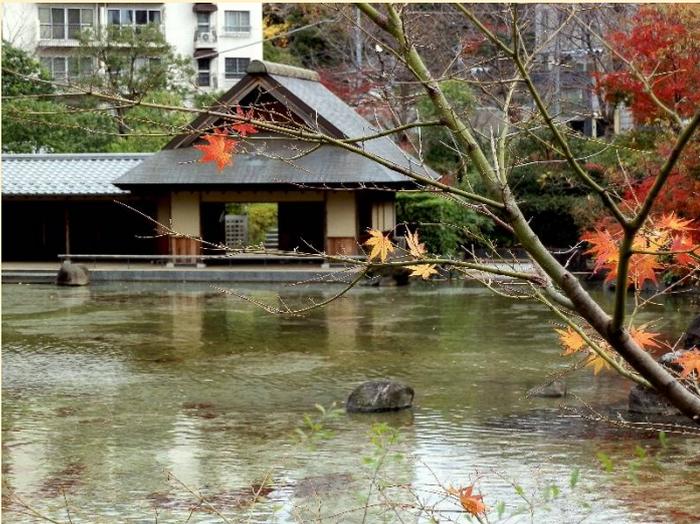
回遊式庭園内は最後の彩りで染まっていました。



スマホを手に皆さんも紅葉を楽しんでいます。



曇り空で色が出ないが紅葉を背に全員集合。顔が葉や枝に隠れてしまいましたがご容赦を。





檜坂の案内が。



坂の解説は市村SLにお任せ！



赤坂氷川神社に着きました。



境内には包丁塚があった。



樹齢400年の銀杏。



本殿の前の紅葉が画になる。



一ツ木通りからは急階段を上ることに。



ここを上らないとランチにありつけないので・・・



ランチ場所は一ツ木公園。ここは高台で寒かった。



近くの親子が遊んでいましたが閑散とした公園です。



仲よし三人組！何だか楽しそうですね～



寒いので皆さん早く出発したいような雰囲気。



この先はビルの中経由で。



赤坂のランドマーク TBS。



赤坂 Biz タワー内にはツリーも。



有名店が入っているので皆さんキョロキョロ。



これはクリスマスプレゼント用のグッズでしょうか。



勝海舟邸跡地には坂本龍馬と二人の像が。



ここで中村 SL から像についての説明を受ける。



今日はやたら坂が多いので足にきそう・・・



こんな所に観音像が？



南部坂。といえば南部藩。



トイレ休憩でアークヒルズに入ります。



テラスのバザー会場に行く KWC。通過するだけ～



お馴染みのサントリーホールもあります。



アークガーデンにも見事な紅葉がありました。



ビルの谷間に見えた紅葉！



ホテルオークラの旧館。



この辺りは“大使館銀座”です。



趣のある坂道を右に下る。東京タワーが見えた。



この先の建物は？ 神谷町の霊友会本部ですね。



狸穴公園で暫し休憩。麻布十番まであと少し。



S Lは笑顔で・・・Lは取り敢えずドリンクから？



一の橋交差点から麻布十番へ。



商店街に行くKWC御一行。渋い！



車の通りは意外と少ない。



鯛焼きの浪速屋には行列が。



ここも人気の麻布かりんと。



「赤い靴」キミちゃんの像。



中村SLよりキミちゃんについての説明もあり。



誰が置いたか「黒い靴」。

### ●キミちゃん像と「赤い靴」

♪赤い靴 はいたた 女の子 異人さんにつれられて 行っちゃった♪・・・

1922年に発表された童謡『赤い靴』（野口雨情作詞・本居長世作曲）の歌詞は、実在の少女をモデルに書かれたとされています。静岡県清水市有渡郡不二見村（現在の静岡市清水区宮加三）出身の岩崎かよの娘・佐野きみ（1902年（明治35年）7月15日～1911年（明治44年）9月15日）がその赤い靴を履いていた少女のモデルとされた。岩崎かよは未婚の母としてきみを育てていたが、北海道に渡り、鈴木志郎と結婚する。きみが満3歳の時、鈴木夫妻は、社会主義運動の一環として当時注目されていた北海道の平民農場へ入植する。しかし、開拓生活の厳しさもあり、かよは義父・佐野安吉の仲介により、娘・きみの養育をアメリカ宣教師のヒュエット夫妻に託すことにした。やがてヒュエット夫妻は本国に帰る事になるが、そのとききみは結核に冒されており、アメリカに連れて行く事が出来ず、そのまま東京・麻布の鳥居坂教会の孤児院「永坂孤女院」に預けられてしまう。きみは孤児院で母親に会うこともできず、9歳で亡くなったという。母親のかよは、きみはヒュエット夫妻と一緒にアメリカに渡ったものと思いこんでいて、きみが東京の孤児院で結核で亡くなったことは知らされないまま、一生を過ごした。

なお「赤い靴の像」は、関東ではこの麻布の他、お馴染みの山下公園と横浜駅南口に。全国では静岡県日本平・北海道留寿都村・北海道小樽市・北海道函館市・青森県鱈ヶ沢町・カルフォルニア州サンディエゴ市にある、但しこの話には諸説もあって事実是不明。（Web サイトより引用）



この「豆源」も有名店です。



あれ、また食べている？



夜はイルミで輝くケヤキ坂。



六本木ヒルズ横の毛利庭園。ここは毛利甲斐守邸跡（長門長府藩麻布上屋敷）



本日締めの上り階段。もう少しでゴールですよ。



振り返ると東京タワーがお見送り！



中庭テラスで締めのコールドアウン。



“お立ち台”には奥村さん！



ここで栗田リーダーより帰路の説明等あり解散。



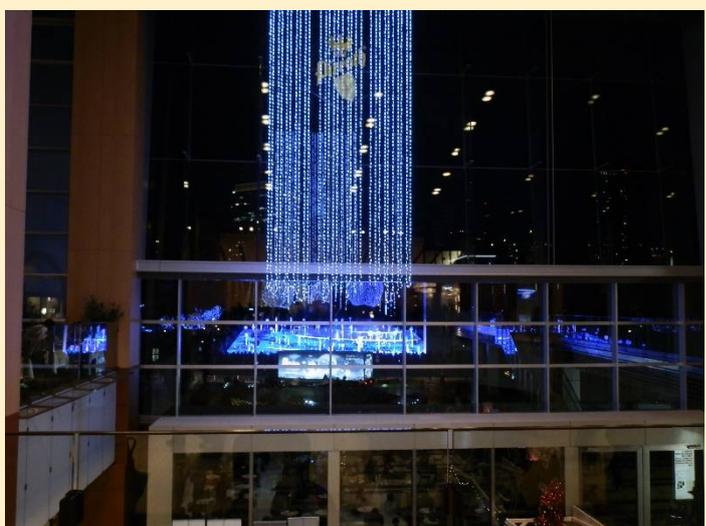
ここから六本木駅へ。お疲れ様でした。(カメラぶれ)

### <今日の一言>

とにかく寒い一日でした。久しぶりの六本木界限ウォークで、少しは気分が若返ったようです。この時期はイルミネーションでどこも若者で一杯でしたが、アフター組は寒さも忘れてブルーライトの競演を楽しみました。この界限は坂道が多いことも再確認できましたが、L&SLからは各ポイントで説明があり、狭いエリアながら中身の濃いコースでした。郊外の里山や低山も楽しいものですが、私には若い昔を思い起させる都内巡りもたまにはいいものです。

これからさらに寒さが厳しくなりますが、ウォークに参加して身体を温めるようにしましょう！

※アフター終了後、希望者でミッドタウンのイルミネーションを見学に。カップルが多くシニアは早々に退散！



END